

全国マイケアプラン・ネットワーク通信

<http://www.mycareplan-net.com>

第13号 2009年8月20日発行
全国マイケアプラン・ネットワーク

発行責任者：島村八重子

FAX 042-405-5950

info@mycareplan-net.com

会員になりませんか？

お申し込みは上記まで。

会費は年間2000円です。

(4月～翌年3月)

郵便振替：00160-8-315560

口座：全国マイケアプラン・ネットワーク

介護を受けている皆さんへ

一生懸命介護をしてる皆さんへ

介護を受ける立場になったら...と心配な皆さんへ

介護をする立場になったら...と不安な皆さんへ

どんな場面でも人生の主役はあなたです

マイケアプランで日々の暮らしに誇りと責任を

行政・専門家の皆さんへ

そんな私たちを応援してください



熱心に話を聞く参加者



講師は國光登志子さん
(レジュメが次ページにあります。)

「自己作成のケアマネジメント」 を考えるゼミが開かれました

2009年7月20日(土)、例会の後半を「自己作成者の会」として、「自己作成のケアマネジメント」というテーマで、立正大学社会福祉学部教授の國光登志子さんにゼミ形式の講義をお願いしました。ケアマネジャーは、ケアマネジメントについての研修を受け、しっかりと学んでから現場に立ちます。一方で自己作成者はケ

ケアマネジメントという概念もないまま、行き当たりばつたりのような形でケアプランを立て始める場合が多いように思います。

そして自治体も自己作成者に対しては、ケアプランを考える過程を飛ばして、給付管理に必要な書類のみの提出を求めているところが数多くあるといえます。

でも、それでいいのかな？ というのがこのゼミを企画したきっかけです。自己作成であろうと素人であろうと、ケアプランを立てるからにはきちんと整理して考え、それを外の目に示して、だれの目から見ても分かるケアプランにする必要があるのではないだろうか。そのために、どんな風にも頭を整理し、どんなことを押さえて何を伝えていかなければならないのか、それを学ぶための企画でした。

質疑応答では、身体的な機能の向上をケアプランの目標にしななければいけないのではなく、精神的な充足感や、「現状の維持」「できるだけ緩やかな下降」あるいは、「穏やかな死」という、老いることを受け入れたものを目標にしてもいいのではないかと、など意見交換が活発になされました。身体面だけでなく内面的な豊かさを求めるケアプランこそ、マイケアプラン。そして

それを内に秘めるのではなく、かかわる人すべてでその過程を共有し、さらに一緒に考えながら進化させていくことが大切だと認識しました。



【レジュメより】

- 1 介護保険は、一人ひとりの課題解決のために、目標を定めて、計画的にサービスを利用する、援助方法を取り入れた。
- 2 介護支援専門員は、研修でケアマネジメントの基本を講義、演習を通して繰り返し学ぶ。
- 3 ケアプランは、1 2でまとめた(マスタープラン)であるはず。しかし実態は、問題指摘型、パターン化したプラン、辻褃合わせの作文、いいなりプラン、監査・指導対策プランなど様々
- 4 要支援・要介護状態に至った背景要因は多様で複雑。現状から見える部分は一部分
- 5 専門的な知識や技術は必要であるが、利用者・介護者に受け入れられないと逆効果
- 6 加齢に伴う課題に対して、利用者・家族、援助者たちが共有できる目標(ターゲット・target)探しが得意な人は誰?
- 7 優れた戦略は、元気が出る目標、楽しめる目標、発展する目標、みんなに認めてもらえる目標
- 8 介護支援専門員も、オールマイティ、ではない。ケアマネジメンが苦手な人、スキルアップを指して努力する人
- 9 利用者・家族も自分のことだから、大切な身近な人のことだから他人任せにしないで学びたい
- 10 マイケアプランナーも計画書作成は、必須。プランがないと、チームがバラバラに。利用者・介護者参加は大原則、主治医も介護スタッフも対等な立場で討議
- 11 個別サービス計画(アクションプラン)が作れない、独り歩き
- 12 モニタリングは見直しのチャンス、目標達成度・課題解決状況の点検確認。何も変化なしはどういうこと?

賢く冷静に...

電話相談から見る最近の利用者像

介護保険が始まって、もう早いもので10年目を迎えています。その間、マイケアプランの活動を通じて、たくさん利用者と会ったり話をしたりしてきました。

に増えているのです。

考えてみれば、ケアマネジャーも行政職員も異動や転職などがあり、10年近くも介護保険にかかわり続けている方はそう多くはないと思いますが、利用者には介護保険がはじまってからずっと利用し続けている人はかなりいます。いちばんのベテランは利用者なのかもしれないとすら思います。周りにしつかりした家族がいる場合も多く、最初はわけが分からなくても、そうした人たちがちよつとでも興味を持てば、いつまでも「分からない」「お手上げ」でなくても不思議はありません。

最近感じるのは、利用者がどんどん賢く冷静になってきているという事実です。自己作成をしたという相談が以前よりも多くなっているのですが、それ単に数が増えているだけでなく、介護保険制度の流れを理解しケアマネジャーの仕事も承知した上で、自分でやりたい、家族のケアプランを立てたいと、冷静に考えていることがうかがえる方が確実に増えています。

今、介護に携わっていたり、これから介護にかかわる団塊の世代は多いはず。仕事から手が離れる団塊の世代も多いはずです。

考え合わせると、自己作成を選ぶ人は増えるのではないかな、そんな気がしています。

厚生労働省 平成21年度 老人保健健康増進等事業

ケアプランの自己作成についての実態調査と自己作成の健全な普及に向けての課題と施策の研究事業

かねて申請をしていた、平成21年度 老人保健健康増進等事業の採択が下りました。今年度の活動の大きな柱となります。

「ケアプランの自己作成についての実態調査と自己作成の健全な普及に向けての課題と施策の研究事業」というテーマです。

自己作成を選択した人の満足度はかなり高いですし、その経験が糧になっっている人も大多数です。自己作成の意義は、マスコミでもよく取り上げられます。こうした現状がある一方で、自己作成への対応は、保険者によってかなりバラつきがあるのが現状のようです。

そんなわけで、今回の事業では、保険者へのアンケートと聴き取り調査を行います。保険者の声を聞かせていただき、ギャップを埋めるにはどうしたらいいのか、考えて提案していきたいと思えます。

マイケアよもやま話

運営委員・須田

メーリングリストでの情報交換が活発な全国マイケアプラン・ネットワークですが、会員同士が顔を合わせる例会も大事にしています。

第3土曜日の午後、地下鉄・本郷三丁目からほど近いコムケアセンター事務所のゼンターテーブルを囲んで、まずは、参加者の自己紹介と近況報告でザツと一巡り。会からのお知らせをアナウンスしたあと、奇数月の場合は、話題提供者に20〜30分ほどテーマに沿ったお話をさせていただきます。質疑応答や、一人一人の状況に合わせた助言が飛び交い、議論が白熱してしまうことも度々ですが、進行役としては、時間の交通整理をして、全員が発言できるよう心が

2009年度役員をお知らせします。

代表 島村八重子

会計 井手智子

運営委員

岩井一衡 須田正子
高木洋子 橋本典之

山田圭子

けています。

会員数は200名以上でも、全国各地に広がっていますから、例会に参加できる方はほんの一握り。顔ぶれも固定化しがちではあるのですが、時には、自己作成を始めばかりの方や、介護の状況が変化した方の参加もあり、生の声をタイムリーに聞き合える機会となっています。

毎月第3土曜日の例会は、これからも変わらず続いていきます。遠隔地のかたも、いつかご都合が合うときに、例会でお会いしましょう！

自己作成の手順書

「マイケアプランの道具箱」は

ホームページで公開中！

好評発売中！

マイケアプラン のヒット作品!!



1冊
500円

お申し込み

メールアドレス

info@mycareplan-net.com

FAX 042-405-5950

在宅介護の集大成

実父がお世話になっていた介護事業所の所長から、「自分でプランを立ててみたら」と全国マイケアプラン・ネットワークを紹介していただき、自己作成を始めました。父は、透析患者で認知症

もあり、身体能力や介護制度が変わる毎に、事業所やケアマネジャーの変更を経験していました。

この事業所はNPOで、マイケアの別組織もあり、民家を借りつけた施設は非常に

アットホームで、父も気に入り、週3日通所していました。また、父のケアマネジャーは35年前、実父を、腎不全で亡くした女性で、腎疾患についての知識も多く非常に心強く感じていました。しかし、主たる介護者である私の都合と超後期高齢者の父の容体の変化で、サービスの利用が増えるにつれ、ケアマネジャーは、行政、事業所、利用者との板挟みになっていました。そのつけは、利用者に戻ってきました。私も人間不信になりかけました。

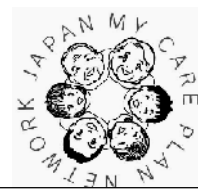
シリーズ
わが家の
マイケアプラン

vol. 13

森 勇香

しかし、父のQOLを下げることはしたくない、この事業所からサービス提供を受け続けたい、という思いで所長の提案に従い、自己作成を始めることになったのです。父は、救急車で緊急入院をすることも時々ありましたが、回復力は旺盛で、まだ終の棲家に入る程ではなく、在宅介護は可能でしたので。

私に、がん患者の在宅介護、看取り、認知症患者の介護の経験があったこと、エリアに前例があったことで、行政は自己作成に好意的でした。マイケアのソフトで、3つ資料を作成し、窓口を持って行った際、担当者が完成度の高さに驚いていました。同時に、終の棲家探しも始めました。08年8月15日、左大腿骨の痛みが増し、腰痛も起こり、車椅子で座位を保てなくなり、父の生活は透析専門病院に移りました。09年4月4日未明、姉と私に看取られ天寿を全うしましたが、自己作成のおかげで在宅の期間が延び、悲惨な状況に陥ることもなく、在宅介護を無事終えることができたことに感謝しております。



会費納入のお願い

みなさんの会費で運営しています。会費(2000円/年間)の納入をよろしく願いいたします。

郵便振替口座 00160-8-315560

加入者名:

全国マイケアプラン・ネットワーク

編集
後記

梅雨明けも曖昧なまま、台風9号がやってきた今年の夏。冷夏のウワサもあるけれど、厚労省・老人保健健康増進等事業の採択を受けて、毎週のように打ち合わせを重ねている全国マイケアプラン・ネットワークの動きは熱い！通常の活動に加えて、あたふたと...？ いえいえ！緊張の中にも、わいわいガヤとマイケアらしく、前向きに取り組んでいます。自己作成の実態調査で各地に伺うことがあるかも。その時は、会報の感想も教えてくださいね。(ms)